

きのこづくしの小旅行

福士 玲子

今回は、茨城～栃木方面に車を走らせました。この旅は、夫の企画によるものでしたので、どんな所へ行くのだろうかということは、「つゆ知らず」でした。初日に訪れたのは、茨城県那珂郡那珂町にある、茨城県立きのこ博士館（図1）という施設です。茨城県植物園という12haの広大な敷地の端にポツンとある建物です。



図1 茨城県立きのこ博士館

はじめは茨城県立きのこ博士館へ

まず、建物の前の芝生からは、童話に出てきそうなカラフルなきのこが、点在しておりました（図2）。博士館の中に足を1歩踏み入ると、そこはもう、きのこワールドです。1階の入り口を通過すると、まずは博士の書斎があります（図3）。建物の中央には『博士の不思議な木』があり（図4）、大きな木やその周辺には、いろいろなキノコや動植物が暮らしています。木の周辺は、いくつかの部屋に分かれており、レストラン、きのこ工場、フェアリーガーデン、きのこ研究室、クラフトパーク等、どの部屋も興味深いものばかりでした。2階は、博士のバルコニーとなっており、ここから見る“不思議な木”も格別でした。きのこ博士について、もっと探りを入れたかったのですが、時間切れで、泣く泣くその地を後にしました。



図2 博士館の庭にはきのこが



図3 きのこ博士の書斎では

国道293号から国道294号を通り、栃木県に入りました。このRoute 294は読み方では、フクシとも読めるので、私たちにとっては感慨深いドライブでした。次の目的地は、那須高原。きのこのお宿『高原荘』を目指しました。何でも、TVで紹介されていたそうです。これまで、きのこの宿というのは、いくつかチャレンジしてきました（桐生市のホテルきのこの森〔現在は廃業になってしまったようです〕須坂市、峰の原高原のペンションきのこ等々）ので、かなり期待に胸を膨らませておりました。

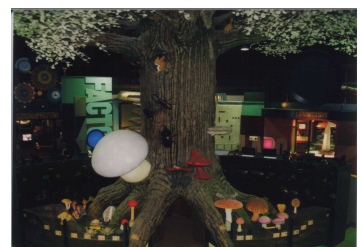


図4 これが博士の不思議な木

お料理もお風呂も

宿に着いた時は、うす暗くなっており、既に、駐車場はほぼ満車でした。宿の屋根は、こんもりと丸みを帯び、建物自体がきのこを彷彿とさせます(図5)。フロントには、見覚えのあるきのこグッズがちらほら、欲しいグッズもちらほら、所狭しと並んでおりました。着いて間もなく、夕食でした。料理は、全てがきのこ料理というわけではありませんが、ところどころ、きのこが顔をのぞかせておりました。10月でしたので、土地のきのこもポツポツありました。食事は、晩も朝も『きのこ亭』というお食事処でいただきます(図6)。(何でも、宿の主は日本酒通のようで、さまざまな一升瓶がぎっしりと並んでおりました。)

宿の離れの一角には、貸し切り露天風呂(家族風呂)があり、夕食後行きました。10月とはいえ高原ということもあり、露天は寒く、とにかく温泉で身体を温めました。内湯は2人でもゆったり入れる檜のお風呂、外には、檜をくり抜いて作ったであろう小さなお風呂が2つあります。蓋には、きのこが描かれておりましたが、早くお湯につかりたいがため、絵を見ている余裕がありませんでした。ふと、足元を見ると、きのこの置物がさりげなく置いてあります(図7,8)。

アットホームな趣が

お風呂を堪能したところで、部屋に戻りました。この宿の特徴は、料金プランにいろいろな設定があり、寝巻きやタオルなどを使用しなければ、キャッシュバックがあるとか、部屋食にするとプラス1,000円とか、その辺は、ご利用の際に、<http://www2a.biglobe.ne.jp/~nasu/ryo/kou-so/>でお確かめください。床を自分で延べるのですが、その辺が、民宿らしいところではないでしょうか。旅館なのだそうですが、雰囲気は民宿です。故に、アットホーム(家庭的)な趣がありました。

近くには、殺生石や那須岳(茶臼岳)もあり、登山前後の疲れを癒す宿としては、良いかもしれません。



図5 那須高原の高原荘・外観



図6 お食事処『きのこ亭』



図7 檜(?)をくり抜いて作った湯船



図8 湯船の脇にはきのこ置物が